

414
A 4154
19



師ニヨライ魯國之髓腦ヲ躰達シ深ク弘教ノ
義ニ任ミ曾テ曰北海道ノ教化ハ吾法ヲ以統一
シテ止ント其大志可感其教法悪ムヘク恐ルヘシ
加之頃日英國教等自費ヲ以北
シ頑民ヲ導キ我文明之風化ヲ裨益セント願
ル由是亦真旨弘教ニアリ如是各國各派
ノ教流内外ニ縱ニセハ何ヲ以テカ包括一致ノ

大正
十一年
四月

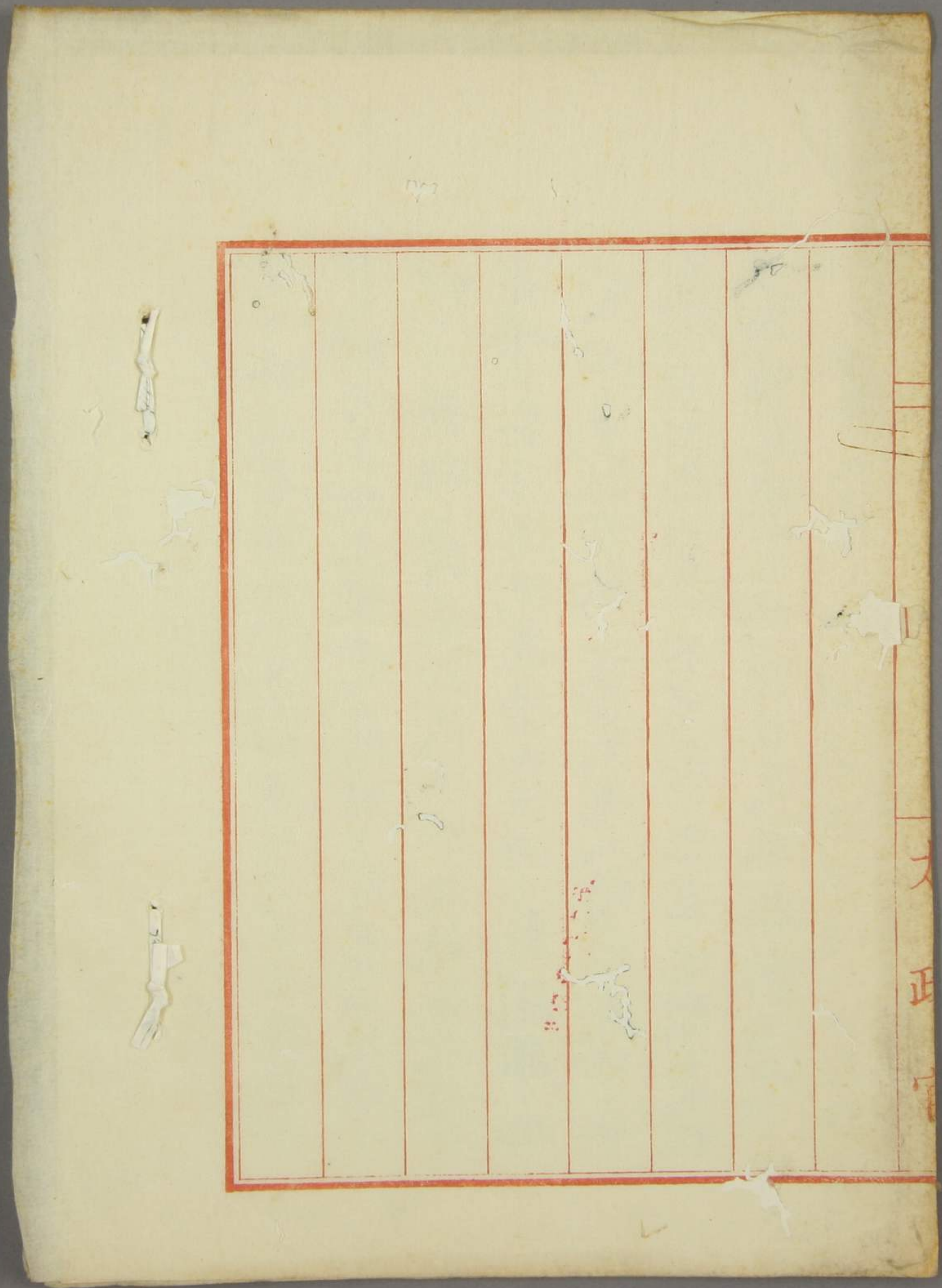


切ヲ遂サセラルヤ。一般教部省御創立内
教普潤ノ基本ヲ定メテ候ニ付テハ各國ノ教師
輩一層膽ヲ凝ラシ行テ研テ其隙ヲ覷ヒ吾教
化ニ先テ彼ノ素志ヲ遂行セント聳企可致ハ必
然也。是預ノ可注意要領ト奉存候然レ北
極ノ人情形勢ヲ熟知セテハ預備計畫ノ
本據ヲキテ如シ遐域草萊ノ地文明日新ノ
情ヲ以テ推究スルキニ非ス仍而速ニ一二ノ監

官ニ丹心憂國ノ謀者ヲ附屬セシメ具サシ情勢ヲ
實檢セシメ後來搜索ノ端緒ヲ開置而後理ト
情トヲ斟酌シ確然御成法御施設相成候方
捷徑ト奉存候先書申上候如ク新開闢ノ地
ハ人心ノ所向百般ノ事業先入為主ノ道理ニ付
教化ノ急務一日モ不可忽ト奉存候間不取敢
至急情態搜索被仰付度奉存候已上

壬申三月





明治七年

魯國教師ニテライ第四六區一小區
駿河臺東紅梅町ニ在當致シ希
臘教盛ニ授與致シ其門ニ入ル者
彌教法尊信ノ旨申入シ入塾ノ三
四ヶ月モ事變信仰ノ精不精ヲ
見當進退為致及趣其進ハ者ハ
洗例ト唱ヘ新規白衣ヲ作リ臨ム
受洗其儀式ヲ奉テ尤ニ
先ツ初メ四十一問答ノ書ヲ讀ムナリ

大正十一年四月
大隈侯爵贈

主芳

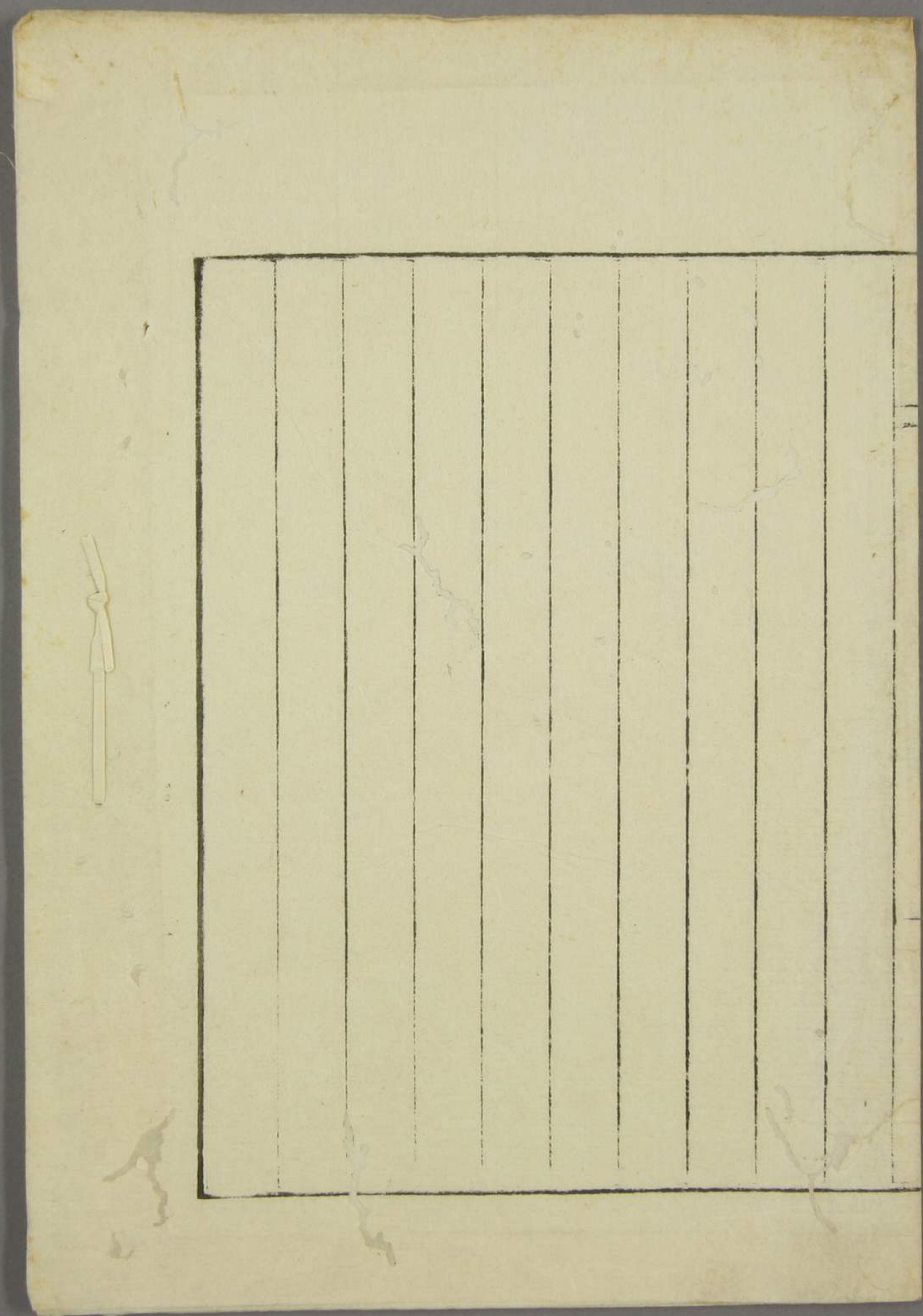


受法ノ者答ノ文詞ヲ讀其問答
第一ニ云萬ノ神ヲ委ク社テ且是ヲ
誦フ字ニ答萬神ヲ委ク社テ是之ヲ
誦フ問其萬ノ神ハ山海ヲ生ニ河嶽
ヨリ人ノ住所及ヒ人間萬民ニ至ル迄ヲ
司ル等ノ偽説ヲ悉ク社テ且之ヲ誦フ
字ニ答之ニ偽説ヲ悉ク社テ且之ヲ誦フ
問諸佛菩薩及其出現ノ妄説ヲ
社テ且之ヲ誦フ如伊等ノ問答都合
四十一卷ク畢テ水ニ這入り水ヨリ上リ

テ^再白衣ヲ衣頸ニ十字架ヲ掛ケ精油
ヲ以テ總身ニ十ノ字ヲ書キ耶漢教
徒ノ名ヲ付ケシ趣キナリ
右様ノ致シ方ニテ諸神ノ守リ札
對シ非禮ノ振舞ホハ決テ無市座次

明治七年三月廿九日 監部





九九號 壬申五月 東京新聞 六月

天正十一年四月 隈侯爵郵寄贈

一希臘海峽ニヨライ三月亦一日ヨリ 彼カ宗居東教

宗館ヲ福述スルニ其發起ニ相良某岡拓樹 軍醫榮

出負山科某其外從學生徒ノ請ニ依テ同福セナリ

初ノハ陽晚五時ヨリ八時迄四時間ノ期ニ應口ニ議セ

ルニ駐家日々ニ増シ其節ハ前ノ倍ナラシニ席ニ分ケ毎

日不欠ノ講義ヲ聞者惣テ四十人余進々増セ其減セズ

未ダ深沈ノ徒ナキニ見テ托唯今ノ數カ止ハ必ス誘惑

セラレナラシ



大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

青月 6

三月一日より彼方宗居車教

述スル其發起相良某岡松掛軍醫奉

示其科從學生徒ノ請ニ依テ同福七八ナリ

先立時より八時迄四時間ノ期ニ應口ニ海也

増シ其常ハ前ノ倍ナシニ席ニ分ケ毎

科より同者惣テ四十人余進々増セ托減セズ

徒ナキニ見セ托唯今ノ數カ止ハ必ス誘惑

軍醫奉

相良某
山科某

一 深川、在宅、高樗、某ハ司法者、度勢出、負ノ人、九ヨシ
毎日出勤ノ飯り出席、駐海也

一 門外中、函館、隨任ノ徒、三十ノ、女、仰ノ、見込、以テ、連
束ルヨシ、莫、字、旨、積、多、初、丁ノ、者、ハ、年、ヲ、分、テ、代、傳
シテ、宗、意、ヲ、御、ノ、リ

一 海陸、某ハ、十、倉、産ノ、者、年、數、五、十、余、（小石川ヨリ）初、通、ヒ、テ、海、女
ヲ、同、ク、今、ハ、彼、女、仰ノ、館、内、ニ、テ、リ、曰、居、シ、テ、宗、旨、ヲ、週
半、ハ、女、仰、和、語、ヲ、為、一、居、ハ、甚、不、當、シ、中、者、ナ、リ

一 元田、某ハ、彼、カ、和、語ノ、先生、ト、ナ、リ、館、内、ニ、起、臥、セ、リ

ニコライ、諺、年、中、好、言、ヲ、吐、シ、生、徒、ヲ、初、允、板

亦不得已
説き下

一 初、席ノ、并、先、言、（口上）比、通、リ、日、本、而、禁、ノ、法、部、下、放、テ、切
支、丹、ノ、家、信、ヲ、并、ス、ハ、付、テ、巧、ミ、テ、道、禱、シ、奉、ル

一 三月、亦、七、日、天、主、人、ヲ、造、ル、付、テ、高、歌、異、ハ、所、以、人、ハ、自、主
自、由、ノ、權、ヲ、与、フ、故、人、已、レ、カ、權、ヲ、以、テ、善、言、ト、モ、ナ、ハ、惡、ト、モ、ナ、
近、ク、日、本、ノ、如、キ、ハ、上、天、子、ヨ、リ、シ、テ、天、主、ヲ、奉、旨、廣、則、惡
尤、自、由、ノ、權、ヲ、張、ル、夫、故、女、法、を、テ、忌、ハ、人、タル、モ、當、院
ノ、限、日、本、ノ、人、ニ、限、ラ、ズ、矣、道、ヲ、矯、テ、モ、皆、女、類、ナ、リ、唯、天、主
ノ、息、罷、シ、家、ヲ、サ、シ、ハ、何、レ、一、交、ハ、女、恩、下、至、ン、一、必、定

光高揚某ハ司法者度勢出負ノ人ナリ
飯り出席駐海あり

館隨にノ徒ニシテハ仰ノ見込ヲ以テ連
宗旨ヲ稽ス初テノ者ニハ年ヲ分テ代傳
ノ御ノケリ

小倉産ノ者年數五十余 初小石川ヨリ通ヒテ海を
シテ彼を仰ノ館内ニテリ曰居シテ宗旨ヲ調
和語ノ者一居ハ甚不富シキ者ナリ
依カ和語ノ先生トナリ館内ニ起臥セリ

フイ諱年中好言ヲ吐シ生徒ヲ勸允板

九言上曰此通リ日本西禁ノ法都下、旅シ切
ルシ年スハ付テ巧ミテ通辯シ事

大主人ヲ造ル付テ禽獸、異ハ所以人ニ自主
与テ故、人ニシカ權ヲ以テ聖旨トモテハ要トモ
如キハ上天子ヨリシテ天皇奉旨、度別、要
ラ張ハ夫故を法をリ忌ハ人タルモ當院
人ニ限ラズ矣通ラ帰ラモ皆矣類ナリ唯天主
家ラサレハ何レニ交ハ其恩下、至ル一必定

司法者度勢 之ヲ揚在
古ノハ流也之四士

ナリ。免前志シテ專要ト云ヒ上リ

一 四月五日 彼京ニ齋日スラ年スニ付テ耶蘇降生三百
十二年ノ右希臘ノ國帝マシスタシカシノ母モナモ深ク其
女ヲ信シ猶太ニ行キ耶蘇ノ旧迹ヲ尋子九月五日ニ
耶蘇ノ刑セラシ十字架ヲ初メテ地ヨリ掘出セシ其
ヨリシテ天下ノ公法トナリ是ヨリ前ハタトニ奉教ノ
人アルモ皆秘密トシ今日日本ニ曰ク國帝ヨリ創セラ
シ毎ニ宸廬セラシテ歴史ヲ見タリ然レ其時セン
ラレシトハ中ノ今日日本ト曰クアラズ愛ニ嚴

科ニ違ヒ若シミテ死スルモノ其教シラス今日日本ノ入
宰位トハ比ベラズ其女教ヲ奉スルハ命ケル塵ノ
如ク土ノ如キモノ今ノ割林不恐ルニ是ラズ除ク此考ヘナ
サレト云

一 門ホ三日 彼之或人私ニ来リテ之ク西洋ノ國ニ法教ヲ
以テ國ヲ奪ヒ軍ノ替リニ宗旨ヲ弘クテアリヤト向
ヒテラテ何レノ國ニシモ初メテ女教ノ来ルトキハ主人カ
彼等ト不審シ起シ一スガ出シテテ扱ナヌナキ
シ其教ハ尤極ナ悪法ニ非ズ軍サレ同僚ノ法テハ御

望リニセ又唯人ヲ天堂ニ導キ中^ニ天^ノ創造ノ時^ヲ約束
シモ^シ存^シ存^シ者^ノ迷^ハモ^ト故^ニタ^リ今日^ノ日本^トロ^シヤ^ト
戦争^ノ起^ルトモ^モ私^シニ^テ於^テハ^ハヤ^リモ^モ掛^合ナ^シヤ^ハリ^安
處^ニ居^リニ^セラ^ズ其^レ証^ト接^ハ昔^シ英^國ト^魯西^兵ト^軍
カ^アリ^タト^キ普^西兵^ノ聖^堂ニ^ハヤ^ハリ^英國^ノ者^ノ仰
別^レテ^テ應^ジテ^テ説^法ヲ^致シ^ニシ^テ也^シ或^レ教^ニハ^テ換^ナ惡
シ^キト^カ時^トアリ^ニス^道ウ^日本^ニモ^一白^宗ノ^傍ニ^連
レ^テ薩^摩ヲ^攻メ^タト^カアリ^ニス^矣ハ^皆換^ル御^手也^シ
今^ノ仰^法ノ^於テ^ハ証^ト接^スアリ^ニス^ト也^シ

一 五月十三日 梅年中ニシテ昔^ロヤ^ニ於^テ知^ル教^ニハ^唯今
日本^ノ神^道ニ^ヨリ^似テ^タリ^タ多^クノ^神ヲ^奉リ^或ハ^植物
ノ^神或^ハ物^ノ裁^判ス^ノ神^火ノ^神水^ノ神^ナド^今日^本
ノ^神ヲ^一ニ^ガ多^クアリ^テ日^本今^ノ神^道ヲ^一ニ^ガ初^メ
教^名アリ^タ也^シ今^ノハ^今ノ^歴史^ノ中^ニ残^ルニ^シテ^耶
蘇^摩生^九百^八十^二年^皇帝^始メ^テ矣^東亞^ヲ信^セシ
ヨ^リ速^ニ矣^矣ス^タリ^テ仕^ぬ唯^今ハ^ヤシ^モアリ^ニモ^又コ^レ
ヲ^以テ^見ル^ニ日^本モ^カリ^ノ如^ク遠^ニ矣^矣同^ク今^ノ
神^道自^ラス^タリ^ニセ^フ矣^矣ヲ^勝ル^同ク^ナラ^ハ神^道ノ

馬麻ラシキフガ自他ト命リニス。然シ神通ヲ誘ルニハ
必シク御聖リニセ又ナド。已上諸年中ノ語ナリ

一或曰。私シ彼ト對話ス。彼者仰云ク。先生初マシ私ニ
来ル前ニ。プロラスタル。及ヒカドリツクノ教一ツ同ニシタ
ガ何シカ直シ中法ト思ヒ云。孰早ク心ヲ定メナサ。然シナ
カラ必シク私シ者ニ從ヒナサシト。勸ケルニ。我スアナタノ
佛心ニカセタトヒ。我者ノスラ、プロラスタルニ從ヒニストモ
必シク不從。思ヒニセ又。ナハリ私シハアナタノ朋友ト思
ヒニス。何ニ止ハ。プロラスタルニシテモ。神通ヤ佛法ヨリハ。年程

近クアナタ其神通化法ヲスラ、一切支丹中ニテリ。我ハ
日本ノ人デハ一焉。親シキ朋友ヲムアリス。何卒早ク心ヲ
定メナサシト。我云。私シは東洋者也。從ヒ切支丹ノ
教一ツキリ。實ニ勝ケルニ善法ト思ヒニス。カ然シ日本ニシ
ハ。御聖ノ法ニシテ。帝王ノ許サヌトヨロシ。我者ハ日本ノ民
士ハ。國帝ニ背クトキハ。國民ノ道立ニス。タトヒ意ニ信メト
モ。公法無道ニ入ラハ。却テ人ノ道ヲ失ヒ。終ニ天主ノ意ニモ背
クヤト存ニス。我ニシテ。思ヒキヤト。彼答云。則ケ君ノ信
仰ノ是サトヨロシ。アナタ君。帝年シテ。親ク殺セト

之、其の致しニス、イカニ帝王ノ命トイフドモ、執ヲ殺ス
ハナラヌナセ、此ハ國帝が無法ナル故ニ、況ヤ今、天主ハ我
等ノ親ニモ親ニシシ、タトヒ親ノ命、背クトモ、天主聖王ニ
背クベカラズ、國帝、背クニ從ハシ、ハナラヌ、又、親ノ命ニモ背
クニ從フベキハ、聖父ニラシハ、コレヲスラ、國帝、從ハシ、
西ノ金ヲスラ、一文ノ錢ヲ拾フモ、モ、一ダ違ヒニス、浮ク由
老ナサシ、イヨク、アサタノ志強クハ、其志、國帝ニモ親ニモ
廟クヤフニ、カシテ、カ、國民ノ役ヲアリニス、假令、又、廟
スレシ、宥逐セラル、トモ、邪鬼ニカス、却テ、上品ノ英國ニ至

其事ハ、海下ノ時ニモ、通リ、日本斗リテハ、十ニ、何國ニモ
初ナラ、法ノ入ル中ハ、必ス、死フニシテ、其恨ムカラズ、日本
モ、進々、同ケシ、外國ニ、ハ、余、泡速カシ、同シ、ン、昨今、
目前ニ、見ラ、オリニス、其、征伐ニ、私シ、英、海、年、
ニ、断、ス、彼、人、カ、同、キ、ニ、シ、モ、政、各、ク、シ、モ、悔、ヒ、セ、又
又、私、シ、ノ、家、名、ノ、海、年、
リ、ニ、ス、先、生、女、シ、テ、恐、ル、ナ、カ、レ、ト、シ、
ル、以、テ、言、フ、吐、キ、
其、所、業、空、ス、
其、所、業、空、ス、
其、所、業、空、ス、

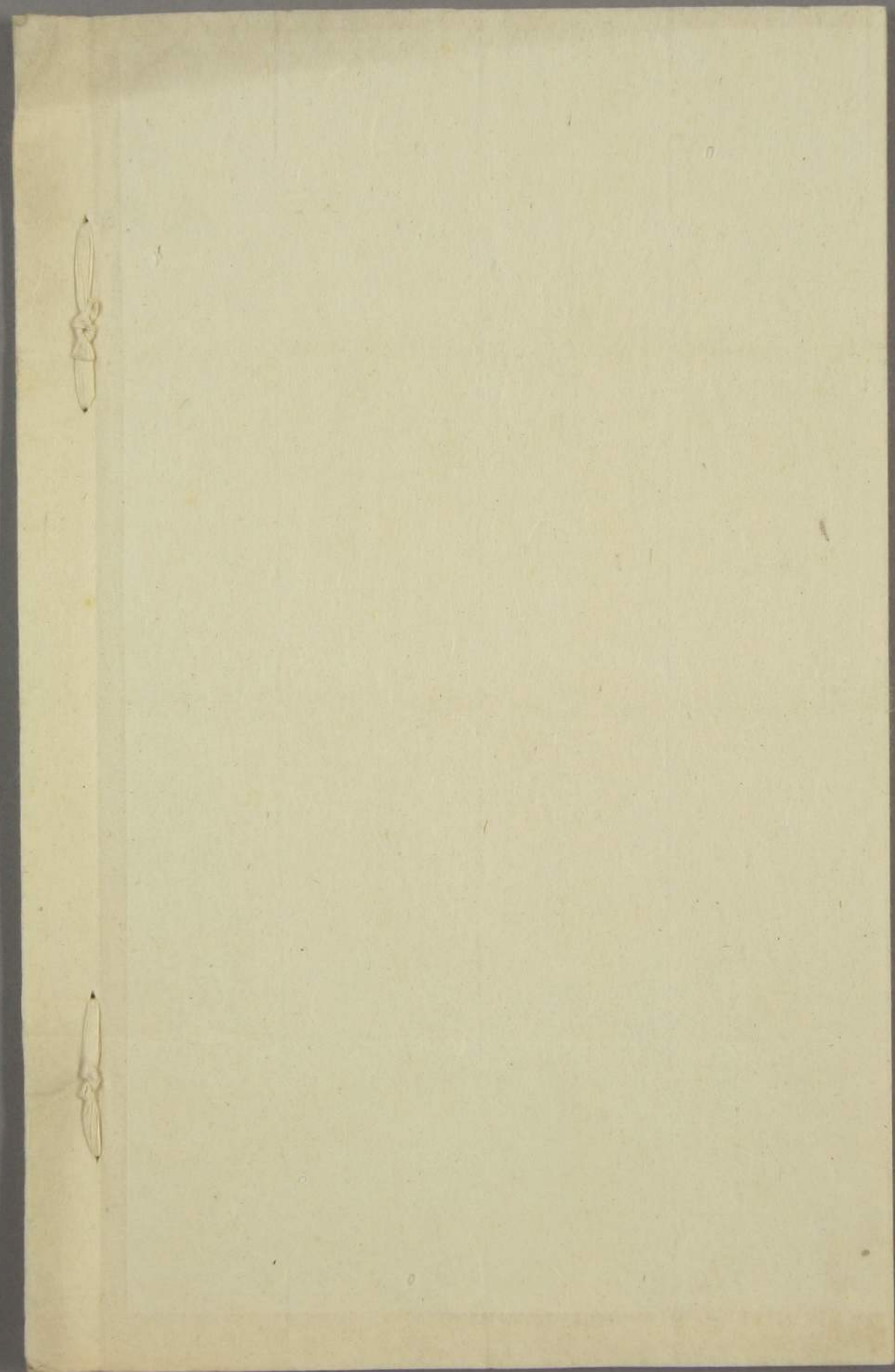
一 一ツラスクニ教師兼人カニシテ久焼中後新富町ニ住宅
 致居交最早再造イタシ四月下旬入宅子相習習日
 下シバイクハ海秋生徒増ニ鞆溪駐海也礼拝堂
 毛道日成效、其年由新海毛故了ラ道日入出不此、
 ハ道ニ揮同して事更委交ニ奉言ハ、如部中生、
 以上

恐惶謹言

壬申五月中旬

謀者某再拜

上



四月朔日

希隔老仰魯人ニヨライ近來鉄鉈冊 居る魯語

教授トシ書生ヲ集メ束脩亦月謝一錢モトク久磨ノ教
授セリ門勇十六人曰居其餘通學ノモトク増殖スル
ルト云三月廿音晩ヲ彼カ宗后東亞宗館トイハルヲ
講解セリ其席ニ列ハ七人ヲ魯語學生中築
館ヲ隨從セリ三人ヲ何モ宗后ノ學ニ凝リシト云夕
リ其餘ノ書生モ子供ノ外皆其席ニ列間ス机上下
新田約ノ宗后ヲ積置セリ教師ノ本意コトハ不知

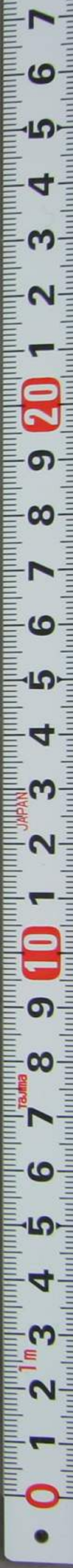
大正十一年四月



レテ其則ニ答フノ謂モ是ノ如クカシク天ノ沈浸先怪物
大カ其確実ヲ辨リ得ス迄ハ其莫言言フ 僕良幸
其宗鑑海述初席より不欠出席任り候。初晩一日
初席ノ上教師ウヤクシテ席言ウ吐ラユリサテ初今
晩よりエノ東交宗鑑ヲ并シニ付テ先以申サ子ハナラヌコト
ハ其法ハ其日本ハ未ダ別業ノ法ニア在リマス私レル計
ヤ国ノモトドモ其御国ニ未レハ其御国ノ規則ニ従ヒテ其
其儀ノ今日奉ノ人、對シテ其ノ年解スルハ其レ私

ノ完記スルアラス諸先生強ク其レ申ユ一己ヲ得ス説クモ
ノレシテ私シテ別なラ得ト云ヒテ其レカレニカレニカレニ
諸先生其レ申トモ要シテ法十六私レ説クテ不能モト
より要法知ス私レノ国ニエハコレク以テ万民ヲ養ヒ国政ヲ
脚ケ最上ノ道トイタシマス故ニ國帝ヨリシテコレヲ尊信シ
名ナラス大故私レモカテ尽シテ説クヤラハミナクサニイテ
正ニモホリテ一尋子其レ今御国ニアリス神道或ハ
ハ仙道儒道ナド、クテ其レ且又御国ノ道ハ此レニセ又

ガ西洋ノ国ニシテハ其宗旨ノ學ガ學問中ノ一カブニシテ必ス
學ハ子ハナシ又フコナリシカリニス夫故ニ十サニシテ學ビ
五ノ世クハ學問ノ一命トモナリニセウ其業ヲ先以而コ
トナリ申スナド、取ニテ多言ヲ述ヘ其旨文、付ク亦解
其其中略ニ 皇國在来ノ道ヲ破シ己カ宗旨ヲ廣
ムト希チク心ナリシノ間カバインカニモト思ハサレナカラ
シ 眞保 執問仕リルテ彼カ力カノ強中其年方巧
ニナレ而禁ノ國ク目掛ケは海ヲ踏クニ志ニテ達セシト
歌瓦物カヒカリモアラズハ叶フニシト感心在リ 趣意大抵
ヲ記シ言上仕ル旨 法推覽一禮奉 乾斗



ニコライノ書、
1914年

函被東林拔草

本地傳教ニ應一説ヲ受ク不感ニ事ハルル去リテ後
教令ヲ守ルル巨魁ニ云々名實金流ニテ云々
捕縛ニ事ハルル大弁波等物ヲ失シテ少ク衰一形ハ甚佳ト
事ヨリ仙臺人ト云々某沼邊某石朽木ト云々某石城又
感ニ事ハルル付書日受説ノ者古九名ニ云々一高又大守元
實令一函ハ固村何賀兼取知流一形ハ甚佳ト事件既
已ニ事ハルル付書大ニ感ニ事ハルル大守元ヨリ江田島村事信令
等々ト云々其付封令ニ事ハルル書此元ニ極中ニ見医了ト云々
受説ノ者ハ多ク南流書等定ヨリ事ハルル名ニ事ハルル事ハルル

大正十一年四月
大隈侯爵御書
贈

詳載

實三可憐子三子

癸酉一月二日差

壬申十二月廿八日

中平江号

福素

大正四年四月

宮城縣士族

大島大博
真山十某

右西人統取ニシテ邦蘇生徒救格連立登立小尤
宮城縣下ニ於テ仕出ニ右學保上ニ在リテコトイハ
ニ入學シテ

右日人民ヲ治ルニ邦蘇ニ過タルハ十二ト云々
下ノ者ニ示テ示スル由日人長年ニ多ク仕族
ノ話ニテ日人皆田日得ニコトイハ方ニ在リ

睦本水浮參事増田

但三樽田ノ學ヲ宗ハセースニスプロテスタント
ト云テ英國ニテ專ラ信仰ノ宗ナル由ナリ

豊永中津ノ人

中村喬三郎

一
壬申十二月二日右日人ニコライイカニテモリ多摩川
士族ニ高橋ト云ク水科某等者常ノ如ク下向
む右宗ノ完行ノタメニコライイカニテ雜用令
トシテ多ク日人ホエモ極ニ由中津人日行モ
ハ權點ニテ高橋田某日品ノ一字出帆ス
ハ亦上ノ山エモ高橋田ヨリ教名出帆日所於宗某
由

高橋田某

世川定吉

右日人昨年余際ヨリ由船ト送ラレス人ナリ
去々以ヨリニコライイカニテ亦ナリナリヨリ二兩
名生流日行大坂ト出向由

以信字一りて

満

大正十一年四月

一月下旬着京教頭方

小野二虎号

一月廿一日着京教頭方

高田孫一郎

教方

影田隆平

會計

大之目源五

翻譯方

真山温又

寫原方

沼邊重助

教法

大島出助

生任

榎渡正吉

丁卯二月旬總長

石田一治

大立自新子

達佐正人

朽本政史

小壽一甚

一條幸司

江座敷等

大山綱吉

二月九日領長

魚屋寺屋長色合等

十一月二日旬領長

壬領長

壬領長

二月九日領長

壬領長

十一月二日旬領長

坂等一祇

白雁信

松川

日野

戸藩

備方等

之(2)直流

領長ノ方一十月二日旬領長ニ月
九日領長ニ月二日旬領長

